

堀田 康之氏
日本バルブ工業会会長

24年度の公表めざす 脱炭素へ中長期目標

業界としてカーボンニュートラル

あらゆるモノがネットにつながるIoT化もホットなトピックです。流量コントロールは、大小さまざまなパイプラインにおいて活用されてきました。現在は化学プラントなどで「スマートバルブ」の採用が広がっています。バルブの作動トルクなどをセンサーによって検知することで、異常が起きる前に予兆を把握し対処できるようになります。バルブの先端技術はさらなる進化を遂げています。

若手経営者を育成 女性の活躍推進も

中小規模の企業が多いバ

ルブ業界では経営者の高齢化による後継者問題もあり、若手経営者育成や事業承継の支援にも力を入れています。また、「女性の感性とモチベーションでバルブ業界の発展に貢献しようと」をスローガンに女性活動の推進を掲げた「バルブ女史ネットワーク」では、毎月に1回ミーティング、年に1回の見学会や講演会などを行っています。業界の課題抽出・解決にむけた情報・意見交換を通じて業界の改革を進めています。

今後はバルブ製品のリサイクルの正常化も見込まれおり、業界全体の飛躍を支える積極的な取り組みが必要な時期だと考えています。当工業会に加盟する各社との連携をさらに強化し、日本の産業構造の転換を支えていき

OKM
株式会社 オーケーエム

STK
Silent Technology
KANEKO

SANEI
TBC
TABUCHI

TOKO VALEX
NDV
日本ダイヤバルブ株式会社

JVMA
過去から未来へ
一般社団法人日本バルブ工業会

Fujikin
FUJIKIN

大和バルブ
株式会社 大和バルブ

3月21日はバルブの日



**供給網の混乱超え
業界は好調を維持**

昨年は地政学的リスクの高まりや新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンなどにより、世界的なインフレーションが起り、原材料価格や輸送費、エネルギーコストの高騰にあらゆる業界が影響を受けました。バルブ産業においては、サプライチェーンの混乱による建築工事の遅れや、部品調達等の

混乱の余波が残るもの、石油化学や水処理、半導体などの分野でおおむね好調な業績を維持しています。

米中対立による世界経済の枠組みの転換や歴史的ともいわれる急激な為替変動など、経済の見通しは不透明なままでですが、製造業の国内回帰による新工場建設や半導体工場の新設といった動きは急ピッチで進んでおり、バルブ産業界は産業構造の転換を支えるべく、いか

から注目されるトピックとして、エネルギー分野において、エネルギー燃料が挙げられます。「製造・運搬・貯蔵・利用」という水素のバリューチェーンでは、優れた封止性能と耐久性をもつた超高压バルブなどが活躍しています。マイナス235度の液化水素を安全に効率的に供給することでができるような製品の開発が進んでいます。

トランに取り組むため「脱炭素化委員会」を新設しました。会員企業同士で問題意識を共有し、現状分析を進め、24年度にはカーボンニュートラル中長期目標を具体的な数値として公表したいと考えています。また、日々進化を続けるバルブには、自動で適流量を制御することで、省エネルギーを実現する製品や、圧力損失を減らしエネルギーロスの低減に寄与する製品があり、サステナビリティに貢献していく

今後も人財活用における会員企業間の積極的な交流を下支えすることにより、業界全体の働き方を見つめ直し、情報共有を図っていきます。SNSなどを通した情報発信にも力を入れており、当工業会の活動を順次発信します。

業界の認知度向上に力を入れてきます。今後はバルブ製品のリサイクルの正常化も見込まれおり、業界全体の飛躍を支える積極的な取り組みが必要な時期だと考えています。当工業会に加盟する各社との連携をさらに強化し、日本の産業構造の転換を支えていき

地政学的リスクや気候変動などを受け、サプライチェーンの混乱や為替の変動リスクが急激に高まり、産業構造の転換が各分野で叫ばれている。エネルギー安全保障やESGの観点から、水素エネルギーの活用やカーボンニュートラルへの取り組みは待ったなしの状況だ。社会インフラを支えるバルブ産業界は持続可能な社会に向か、どのような展望を描いているのか。2024年3月21日に創立70周年を迎える日本バルブ工業会の堀田康之会長に聞いた。

サステナブルな未来へ 構造改革進める バルブ業界

